



くすい箱

発行

桐生厚生総合病院 薬剤部

発行責任者 阿部 正樹

編集担当者 細谷 潤

千吉良 啓介

第80回目のテーマは、「新肺炎球菌ワクチン(65歳の方を対象)とRSウイルス感染症予防ワクチンについて」です。

2026年4月から、主に65歳の方を対象とした肺炎球菌(はいえんきゅうきん)ワクチンの定期接種(公費助成対象)が、より長く効果が続く新しいワクチン「プレバナー20®(PCV20)」へ変更されました。

また、新しい結合型ワクチン「キャップボックス®(PCV21)」も使用できるようになっていますが、キャップボックス®は現時点では任意接種(自費)となります。

また、これまで日本になかったRSウイルス感染症予防ワクチン「アレックスビー®」が、60歳以上の方などに使用できるようになっています。

なお、プレバナー20®は小児にも使用されるワクチンですが、本誌では主に65歳の方に対する肺炎球菌ワクチンをご紹介します。

肺炎やRSウイルス感染症は、高齢者や持病のある方では重症化することがあり、ワクチンによる予防がとても重要です。

肺炎球菌(はいえんきゅうきん)ワクチンとは?...

肺炎球菌は、肺炎を起こすだけでなく、血液中に入りこむ敗血症(はいけつしょう)や、脳を包む膜に炎症が起きる髄膜炎(すいまくえん)など、命に関わる病気の原因になることがあります。そのため、ワクチンで予防することがとても大切です。

ワクチンの種類と特徴(2026年4月以降)

比較項目	プレバナー20®(PCV20)	キャップボックス®(PCV21)	ニューモバックスNP®(PPSV23)
ワクチンの仕組み	結合型 (免疫の記憶を作るタイプ)	結合型 (免疫の記憶を作るタイプ)	多糖体型 (抗体を一時的に作るタイプ)
効果の持続性	◎ 長期間続く (原則1回接種)	◎ 長期間続く (原則1回接種)	△ 数年で効果が下がる (5年毎に必要)
定期接種	2026年4月～ 公費助成の対象 (自己負担あり) 65歳になる方 60～64歳で基礎疾患のある方*	現時点では対象外で任意接種 (自費)	2026年3月で終了
対応する菌の種類	20種類	21種類	23種類

※ 桐生市、みどり市において60～64歳で対象となる方は、「心臓・腎臓・呼吸器疾患・免疫不全のいずれかで身体障害者手帳1級を交付されている人」です。

※ 公費助成の対象年齢・自己負担額・接種スケジュール等は自治体によって異なる場合があります。

詳しくはお住まいの市区町村窓口またはかかりつけ医にご確認ください。

接種の目安(あなたはどちら?)

肺炎球菌ワクチンをまだ受けていない方	プレベナー20® または キャップボックス® を接種
ニューモボックス®を以前に受けた方	前回の接種から1年以上経てればプレベナー20® または キャップボックス® が接種可能

RSウイルス感染症とは?

RSウイルスは秋から冬にかけて流行する呼吸器のウイルスです。子どもだけでなく高齢者や持病のある方も感染すると、**気管支炎や肺炎など肺や気管支の重い病気(下気道疾患)**につながる可能性があります。現在、RSウイルスに直接効く治療薬はないため、かかる前にワクチンで予防することが重要です。

△ 特に気をつけていただきたい方(重症化しやすい方)	
<ul style="list-style-type: none">▶ 60歳以上の高齢の方▶ 肺や気管支に持病がある方 (COPD=慢性閉塞性肺疾患、喘息など)▶ 心臓や血管に持病がある方▶ 糖尿病のある方	<ul style="list-style-type: none">▶ 腎臓や肝臓に持病がある方▶ 神経や筋肉に持病がある方▶ 高度の肥満がある方 (体格指数BMIが30以上を目安)▶ 免疫の働きが低下している方

RSウイルス感染症を防ぐワクチン「アレックスビー®」

アレックスビー®は、日本で初めて承認されたRSウイルス感染症予防ワクチンです。ウイルスをやっつける力(抗体)をあらかじめ体の中に作ることで、感染や発症を防ぎます。

接種対象	60歳以上の方、または18歳以上でRSウイルス感染症が重症化しやすい持病のある方
接種回数・方法	1回のみ 腕の筋肉(三角筋)に注射します
費用	現時点では、全額自己負担となります(健康保険の適用外のため、金額は医療機関によって異なります)
予防効果(臨床試験)	接種後最初の流行シーズン:肺炎などの重い症状を約83%予防 2シーズン目:約67% 3シーズン目:約63% →継続的な効果が確認されています
主な副反応	注射した部位の痛み(約67%)、筋肉のだるさ(約40%)、全身の倦怠感(約41%)、頭痛(約31%) *いずれも数日以内に回復することがほとんどです

アレックスビー®は、くすり箱第77号で紹介したアブリスボと異なり母子免疫を目的としては使用できません。また、妊娠中または妊娠の可能性のある方への接種は勧められていません。

(参考)アレックスビー添付文書(2026年5月改訂第5版) /厚生労働省 65歳以上の成人に対する肺炎球菌ワクチン接種に関する考え方(第8版)

最後に

肺炎球菌ワクチンも、RSウイルスワクチンも、感染症から身を守るための大切なワクチンです。特に高齢の方や持病のある方は、ぜひかかりつけ医や薬剤師にご相談のうえ、接種をご検討ください。

お薬について気になることがありましたら、薬剤師までお気軽にご相談ください

次回は、2026年9月発行予定です。